

事務事業マネジメントシート(平成22年度実績と平成23年度計画)

平成23年10月14日更新

事務事業名		須屋浄化センター及び関連ポンプ場維持管理事業			<input type="checkbox"/> マニフェスト関連 <input type="checkbox"/> 全庁横断課題関連 <input checked="" type="checkbox"/> 集中改革プラン関連				
総合計画体系	政策	2	緑豊かな環境と共生するまちづくり			所属部	水道局	課長名	久留 伸二
	施策	10	水環境の保全			所属課	上下水道課	担当者名	酒巻 将之
	基本事業	28	水質の浄化			所属班	管理工務班	(内線)	1177
予算科目		会計	款	項	目	事業連番	法令根拠	下水道法、水質汚濁防止法 市下水道条例 成果優先度評価結果 同施行規則 コスト削減優先度評価結果	
終了、開始年度		<input type="checkbox"/> 22年度で終了 <input type="checkbox"/> 22年度から開始			事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (開始年度 18 年度) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 ( ~ 年度)			

★事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】	建設及び設置された須屋浄化センター及びマンホールポンプ場の機能を保持し、適正な維持管理及び運転を行うことにより、汚水を浄化し公共用水域の水質を保全する事業である。 主として、施設の通常運転管理及び水質管理は専門業者に委託し、職員は維持管理状況の確認及び指導を行い、消耗品、医薬材料、原材料、燃料等の適宜調達事務、法定検査対応事務、維持管理運転に係る補修対応を行うものである。 旧西合志町の公共下水道事業計画により、昭和54、55年度に須屋浄化センターが建設され、昭和56年4月の供用開始によって事業を開始した。 供用開始から29年を経過し、施設の劣化及び老朽化が進んでおり、著しく補修箇所が増えている。 また、公共下水道事業計画区域の拡大により、管路施設を整備するため、区域内に6箇所のマンホールポンプ場を設置し、その維持管理も行う事業である。
【業務の流れ】	①運転管理受託者との契約、業務管理確認、指導事務、②物品等調達契約事務、③維持管理委託外の修繕及び工事等の執行事務(実施の際の緊急性、公共性の判断、手段・仕様決定、契約及び検査事務を含む。)、④現地指導、打合せ事務、⑤支払事務
【主な予算費目】	需用費(消耗品費、光熱水費、施設修繕費、燃料費、印刷製本費、医薬材料費)、役員費、委託料、使用料及び賃借料、工事請負費、原材料費、負担金及び交付金
【意見や要望】	関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標	新規・拡充区分
① 手段(主な活動) 22年度実績(22年度に行った主な活動)(DO)	23年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN)
浄化センター・ポンプ場の保守、点検の委託 浄化センター・ポンプ場の補修等、優先度を把握し、的確な修繕を行う。	須屋浄化センター及びマンホールポンプ場の良好な運転を行うため、各種保守、点検業務を委託する。 施設の補修等、優先度を把握し、的確な維持管理を行う。
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位) 予算の主な増減の理由
→ ア 保守点検、委託の件数	件
イ 補修件数	件
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	② 対象指標(対象の大きさを表す指標)
終末処理場、マンホールポンプ場	(単位)
	→ ア 処理場数
	イ マンホールポンプ場数
	箇所
	箇所
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	③ 成果指標(意図の達成度を表す指標)
支障無く稼働できる。	(単位)
	→ ア 不具合やトラブルの発生件数
	件
	イ 不具合やトラブルへの対応率
	%

(2) 各指標・総事業費の推移		単位	20年度実績(決算)	21年度実績(決算)	22年度目標(当初予算)	22年度実績(決算)	23年度目標(当初予算)	24年度予定	25年度見込	総トータルコスト 全体計画 ~ 年度 (期間限定複数年度のみ記載) 0
① 活動指標	ア 件	件	9	14	10	10	10	10	10	
	イ 件	件	8	14	0	8	10	12	14	
② 対象指標	ア 箇所	箇所	1	1	1	1	1	1	1	
	イ 箇所	箇所	6	6	6	6	6	6	6	
③ 成果指標	ア 件	件	8	14	0	8	10	12	15	
	イ %	%	100	100	100	100	100	100	100	
投資入費量	財源内訳	国庫支出金	千円							
		都道府県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円	111,947	112,295	113,891	102,752	115,790	114,000	115,000
		繰入金	千円							
	一般財源	千円								
	(A) 事業費計	千円	111,947	112,295	113,891	102,752	115,790	114,000	115,000	
	(A)のうち指定経費	千円	0	0	3	0	0	0	0	
	(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0	
	正規職員従事人数	人	6	6	6	6	6	6	6	
	延べ業務時間	時間	900	900	900	995	900	900	900	
	(B) 人件費計	千円	3,600	3,582	3,582	4,099	3,708	3,708	3,708	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	115,547	115,877	117,473	106,851	119,498	117,708	118,708	

事務事業名	須屋浄化センター及び関連ポンプ場維持管理事業	所属部	水道局	所属課	上下水道課
-------	------------------------	-----	-----	-----	-------

2 評価の部 (SEE) ※原則は22年度の後評価、ただし複数年度事業は22年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①22年度目標達成度評価 事務事業の当年度実績は当年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <span style="float: right;"><input type="checkbox"/>達成しなかった ⇒【理由】</span>
	②23年度目標達成見込み 事務事業の次年度目標値に対して次年度の見込みはついているのか？	<input checked="" type="checkbox"/> 目標達成見込みあり ⇒【理由】 <span style="float: right;"><input type="checkbox"/>目標達成は厳しい ⇒【理由と対策】</span> 不具合やトラブルの発生に対し、解決するための機器類の備えや委託者及び職員による日頃のメンテナンス体制を整えており、対応率は目標を達成できる。
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになっていないか？	<input type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】 <span style="float: right;"><input checked="" type="checkbox"/>向上余地がない ⇒【理由】</span> 施設の機能を保持し、支障無く稼動することが成果であるため、向上の余地はない。しかし、年々劣化していく施設を支障無く稼動し続けていくためには、事業内容を刻々と変化させていく必要がある。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) <span style="float: right;"><input type="checkbox"/>他に手段がない ⇒【理由】</span> <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 将来にわたる維持管理の形態を研究し、汚水を市外処理場（熊本北部流域下水道）へ流入させて広域的に処理しようという統廃合の方法はあるが、流入相手先との協議や事業計画の変更及び施設建設に係る補助金の問題等、検討する課題が多く、短期間で決定することはできず、現時点及びここ数年での統廃合・連携は困難である。
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <span style="float: right;"><input checked="" type="checkbox"/>削減余地がない ⇒【理由】</span> 施設に流入する汚水の量は、人口の伸びや事業所等の立地によって年々増えており、それに伴い処理に要する費用も増えるため、事業費の削減余地はない。 平成21年度須屋浄化センターの包括的民間委託導入可能性の検討を行ったが、現状でもほぼ包括的な委託を行っており、さらなる包括委託を進めても効果は薄いという結果であった。
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <span style="float: right;"><input checked="" type="checkbox"/>削減余地がない ⇒【理由】</span> 現在でも最少の人員で、しかも水道業務との兼任で事業を行っており、削減の余地はない。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <span style="float: right;"><input checked="" type="checkbox"/>公平・公正である ⇒【理由】</span> 施設の維持管理費は全て使用者からの下水道使用料で運営されており、費用負担としては適正である。
	⑧行政の役割分担の適正化 事業事務のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行できないか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <span style="float: right;"><input checked="" type="checkbox"/>役割分担は適正である ⇒【理由】</span> 本事業は、公共用水域の水質保全という公共の目的に沿って実施するものであるため、手段に変更はあっても、公共(市)に代わる担い手は今のところない。

3 評価結果の総括 (SEE) ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

緊急を要する修繕等、急な故障にも適切に対応でき下水道の維持に支障なく対応できた。特殊な設備が多いため、故障の件数減少のためにも専門業者による点検範囲を再度検討したい。

4 今後の方向性 (事務事業担当課案) (PLAN)

<p>(1) 今後の事業の方向性 (改革改善案)・・・複数選択可</p> <p><input type="checkbox"/>廃止 <input type="checkbox"/>休止 <input type="checkbox"/>目的再設定 <input type="checkbox"/>事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/>事業のやり方改善 (有効性改善)</p> <p><input type="checkbox"/>事業のやり方改善 (効率性改善) <input type="checkbox"/>事業のやり方改善 (公平性改善)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>現状維持 (従来通りで特に改革改善をしない)</p> <p>施設の機能を保持し、支障無く稼動することが成果であり、向上余地はないが、年々劣化していく施設を支障無く稼動し続けていくためには、計画的な改築・更新計画を策定し、効果的な対策を講じていくことが必要であり、長期的なライフサイクルコストの低減を図っていく。</p>	<p>(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要)</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持		○																			
	低下																					
<p>(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題 (壁) とその解決策</p> <p>施設や設備のライフサイクルコストの最小化をめざし、下水道長寿命化計画策定及び対策事業と歩調を合わせる必要がある。また、根本的な汚水処理の広域化については、長期的な視点で検討する必要がある。客観的な立場の第三者(日本下水道事業団や外部専門家など)を加え、懸念される問題点の洗い出しから始め、少しずつ検討を進めていきたい。</p>																						